



本年度の青少年育成事業「のりこえろ！無人島生活」において、子供たちに「あきらめない逞しさ」を育むために、事業構築を行いました。大人の役割としては、子供たちが主体性をもって活動して頂くために、決められたプログラムを指導しながら課題に取り組むのではなく、近くで見守ることを重要視しました。そうすることで、子供たちは安心して課題に向かうことができ、なかなかうまくいかない時にもほんの少しの助言で、自ら試行錯誤しながら課題を解決し達成体験を得ることができたのではないかと考えます。

本事業において、子供たちがこれまでに経験したことのない厳しい環境下での課題を、あきらめずに最後までやり遂げて得た達成感は「あきらめなければ必ずできる」という自信となったことに間違いありません。そしてその自信が、新たな目標や課題にあきらめず挑み続ける原動力となり、自己実現に向かって逞しく歩み続けてくれると確信しています。

今後本報告書をきっかけとして、子供たちが自ら考え試行錯誤しながらあきらめず乗り越える経験を積むために、子供たち自身が主体性をもって取り組む姿を尊重して最後まで見守ることに意義を感じて頂き、家庭や学校での日常生活に活かして頂ければ幸いです。また、3日間活動を共にしたボランティアスタッフの皆様が本事業での経験を活かし、今後の青少年育成の担い手として活躍して頂けることを願っております。

結びとなりますが、本事業にご協力頂きました行政・企業・団体の皆様とボランティアスタッフの皆様に感謝を申し上げます。

公益社団法人 岐阜青年会議所 青少年心身育成委員会 委員長 市川 智己



発行 公益社団法人 岐阜青年会議所  
2015年度青少年心身育成委員会

副理事長 神田 泰作  
室長 石田 昌平

編集責任者 委員長 市川 智己

副委員長	市橋 拓	住谷 哲	高野 祥平	日比 順一
委員	岩田 貴宏	臼井 規郎	梅田 真臣	追立 達也
	國井 常晃	笹本 直樹	白木 健	高橋 鏡充
	服部 誠一	伴 幸洋	日比野正樹	馬淵 浩史
	宮森 定也	森田 隆一		

JCI 公益社団法人 岐阜青年会議所

# のりこえろ！無人島生活

～あきらめなければ必ずできる！～

## 報告書



### ●事業実施の背景

変化の激しい現代社会において、子供たちがどのような課題を前にしても「私にはできる」という自己効力感をもって、逞しく生き抜いていける力を備えて欲しいと願います。そのためには、子供たちが、与えられた道を進むのではなく自ら考えて行動し、試行錯誤しながら目の前の課題を乗り越える経験を積むことが必要です。そこで、本年度（公社）岐阜青年会議所では、子供たちに無人島という日常生活で当たり前にあるものがない非日常の環境下で、2泊3日の生活をするという課題に挑戦する青少年育成事業「のりこえろ！無人島生活」を構築し実施致しました。

### ●事業目的

青少年育成事業「のりこえろ！無人島生活」では、子供たちが自ら道を切り拓き、明るい未来を掴み取るために、どのような壁を前にしても乗り越えるまであきらめないということが不可欠です。また、子供たちに2泊3日の無人島生活を最後までやり遂げることを目標として取り組み達成することで、自らの可能性を信じて逞しく歩み続ける原動力になります。そこで、子供たちに本事業を通じて「あきらめない逞しさ」を育むことを目的としました。



- 実施日** 2015年7月28日(火)～30日(木)  
※事前説明会7月5日(日) 長良川スポーツプラザ大会議室
- 実施場所** 三河大島アスティ・オアシス (愛知県蒲郡市)
- 参加者** 岐阜市及び近郊の小学校に通う児童5・6年生 40名

# 「あきらめない逞しさ」を育むプロセス

「あきらめない」=必ずやり遂げるという精神力

「逞しさ」=主体的に挑み続ける行動力

主体性をもって課題に取り組む

あきらめない!

試行錯誤する + 仲間と協力する (チームワーク)

あきらめない!

課題解決・達成体験

「主体性」をもつきっかけ

- ・興味や挑戦意欲が湧く。
- ・必要に迫られる。

無人島という非日常の環境

課題の設定と条件

- ・自ら考えて取り組む課題。
- ・簡単にはできず、試行錯誤が必要な課題。
- ・協力や役割分担が必要となる課題。

ミッションとしてクリアを目指す!

事業後の子供たちの姿

挑戦意欲が高まり、自己実現に向かって逞しく歩んでいける!

「あきらめなければ必ずできる」という実感が「逞しさ」を育む!

「あきらめない逞しさ」を育むための目標を設定

事業目的である、「あきらめない逞しさ」を育むために「2泊3日の無人島生活を最後までやり遂げる」ということを目標として設定しました。また、目標を達成するために必要となる要素が次の3点であると考えました。

- ①主体性 ……自ら考え、自ら決めて行動すること。
- ②試行錯誤 ……失敗から学び工夫すること。挑み続けること。
- ③協力 ……知識・アイデア・作業量を高めること。

「主体性・試行錯誤・協力」を促す「ミッション」

子供たちが目標の達成に向かう過程で「主体性・試行錯誤・協力」を促すと同時に、無人島という非日常の環境を活かした課題であることが重要であると考えました。そこで、決められた内容を決められた順番で取り組むのではなく、子供たちが自ら考え試行錯誤し、チームの仲間との協力によって乗り越えることができるという点を重視し、「ミッション」として設定しました。

## 事前体験説明会

### 当日までの準備と意識付け

7月5日(日)に事前体験説明会を行い、事業概要を説明後、40名の参加児童に8名5チームに分かれてもらい、事前作戦会議を行いました。ここで、無人島で生活するためには、何が必要になるのかを考えてもらい、各家庭でできることを練習して行くという宿題を出し、無人島生活は自分たちで行っていかねばならないことを意識付けました。

### 事前体験説明会での子供たちの様子

事前体験におけるチーム作戦会議では、子供たちがやりたいことを、各々に言い合うような自分中心の発言が多く見受けられました。また、事前チーム作戦会議の時間では、話し合いがまとまらないまま本番当日を迎えたチームも多くあり、不安を残したままでのスタートでもありました。



## 事業当日・出発

### 自分たちだけで「目的地を目指せ!」

いよいよ事業当日を迎え、JR岐阜駅の中央改札前に各チームで集合してチーム毎に三河大島行きフェリーが出る蒲郡港を目指してもらいました。「自分たちだけで目的地に行けた!」という達成感、これからはじまる無人島生活への意欲を高めました。

### 「目的地を目指せ!」でのエピソード

5チームの内2チームが、乗車する電車を間違え、ここままだとフェリーの時間に間に合わないというハプニングがありましたが、自分たちで間違いに気づき、途中で電車に乗り換えて無事時間通りに到着することができました。



## 無人島生活開始!

### 「チーム作戦会議」

無人島で3日間生活するために必要なことを各チームで話し合い、何が必要なのかを考え、役割を分担して活動してもらいました。自分の役割を自覚して、必要なものを探したり、作ったりしながら責任感をもって試行錯誤することで、考える力や協調性を育んでもらいました。

### 「チーム作戦会議」での子供たちの様子

1回目のチーム作戦会議では、自分のやりたいことばかりを主張する場面が多く見受けられましたが、回数を重ねる毎に、リーダーを中心に問題解決に向けて真剣に話し合う場面が見受けられ、チームが徐々にまとまってきました。



## 3つのミッションを通じての子供たちの変化

【ミッションI】

限られた食材・道具で2泊3日を乗りきろう!

各チーム毎に限られた食材と道具を提供して、その中で2泊3日の生活を乗りきることを目標とし、ミッションとして設定しました。普段当たり前にあるものが無い生活で試行錯誤しながら生きていくことの大変さを感じ、一つひとつの課題を乗り越えていってもらいました。

初日は、自分の遊びたい気持ちが優先され好きな事だけやる子供たちと、課題達成に向け動き出す子供たちとでチームとしてもまとまりのない状況になっていました。問題が発生する前の子供たちは旅行気分の状態の子も多いと感じました。



【ミッションII】

生活するために必要なことをチームで考えて、役割分担や協力しながら取り組もう!

無人島で生活するために必要なことをチームで話し合い、何をしていくかを考えて役割を分担して行ってもらいました。自分の役割を自覚して、必要なものを探したり、作ったりしながら責任感をもって試行錯誤しながら活動してもらいました。

テント設営や竹器作りに多大な時間を要したり、食事がなかなかうまく作れなかったり、多くの課題に直面することで、少しずつ子供たちの意識が変化し、真剣な顔つきに変わってきました。



【ミッションIII-①】

無人島生活が終わっても大切にしていきたいことを、全員が山頂の神社で誓おう!

2日目の最後の活動として、2日間の無人島生活で学んだことから、これから大切にしていきたいことを振り返りながら絵馬に記し、神社に奉納しました。子供たちも苦労した経験や達成できたことなど思いおもいに絵馬に記す姿が印象的でした。



【ミッションIII-②】

チームで協力して海を渡る筏を作ろう! 作った筏で目標地点を目指せ!

筏作りでは、構造から子供たち自身で考え、チームの仲間と協力して製作に取り掛かりました。どのチームも、チームの仲間全員が乗れる筏を完成させるのに苦労し、試行錯誤しながら進水実験と改良を繰り返し、あきらめずに完成させることができました。そして、3日目の最終プログラムとして、完成させた筏に乗って目標地点への到達を目指しました。仲間との協力の大切さと自分たちで筏を完成させた目標地点まで到達した達成感を得てもらうことができました。



## 「のりこえろ! 無人島生活」での子供たちの変化

当初は、無人島生活で必要になる課題より、自分たちのやりたいことを優先してしまう場面が多く、チームで協力しながらの活動ができていませんでした。しかし、各チームをサポートするJCメンバーとボランティアスタッフが、子供たちと向き合いながら手本を示したり助言するなど関わり続けたことで、徐々に主体的に取り組むようになり、主体的に活動をはじめたことで子供たち一人ひとりの意識と行動に変化が表れ、各チームがまとまりはじめました。その結果、簡単にはできないことに対しても試行錯誤することやチームの仲間と協力することで、あきらめずに取り組むようになり、全チームが全てのミッションを達成することができました。

### 参加した子供たちの感想

#### ●「のりこえろ! 無人島生活」で辛かったけどのりこえられて感じたこと

- ・普段当たり前にあるものが無く、やってくれる人たちがいなかったこと。それを乗り越えて、これからはなるべく自分で色々なことをやっていきたいと思った。
- ・辛くても頑張ること。仲間と頑張れば色々なことができると感じた。
- ・筏作りと、筏で目的地まで行くのが大変だったけど、協力して「私にはできる! 私たちにはできる!」と思いながらやることができました。



#### ●「のりこえろ! 無人島生活」を経験してこれから大切にしていきたいと感じたこと

- ・あきらめないことと、失敗したら自分たちで改善させるということ。
- ・あきらめずに頑張れば、必ずできるということ。
- ・最後まであきらめないという気持ち。
- ・何にでもチャレンジすることや、仲間と協力すればどんなことでもできるということ。



事業後アンケートからも、子供たちの意識に変化が表れ「あきらめない逞しさ」が育まれたことがうかがえました。また、保護者の方からも「自分で考えたり、行動するようになった。」「何事も、自分から意欲的に取り組むようになった。」等、行動の変化に表れているというお話を多数頂きました。